

氏 名 : 山上 妙子  
学 位 の 種 類 : 博士 (看護学)  
学 位 記 番 号 : 博看第15号  
学位授与の要件 : 学位授与基準第4条第1項該当  
学 位 論 文 題 目 : 青年期の性の自己評価尺度の開発  
研究指導教員 : 教授 大島 久二  
論文審査委員 : (主査) 竹内 朋子  
(副査) 島田 三恵子  
(委員) 衣川 さえ子、森 千鶴

## 論文審査結果の要旨

本研究は、青年期の性にまつわる社会的課題を背景に、青年期にある人々が自己の性的アイデンティティを認識することの重要性に着眼して、その測定ツールとして「青年期の性の自己評価尺度 (Sexual Self-assessment Scale for Adolescents ; 以下 SSAS)」の開発を試みた意欲的な研究である。

本研究は、はじめに諸外国の性教育で活用されている「The Circle of Sexuality」を主要な概念枠組みとし、青年期層へのヒヤリングや専門家によるスーパーバイズをもとに原案となる SSAS を試作した。次に第1回目の検証として、高等教育機関に在学する18～24歳の437名に質問紙調査を実施し、探索的因子分析などから尺度構成を修正した。そして第2回目の検証として、高等教育機関に在学する18～24歳の500名に質問紙調査を実施し、修正した SSAS について基準変数との関連性を含めた信頼性と妥当性の検証を実施した。最終的に、22項目4因子から成る SSAS の信頼性と妥当性が検証された。

審査会で議論された通り、本研究にはいくつかの発展的課題が残されており、今後は信頼性と妥当性の検証の精度を高め、SSAS の実用性や汎用可能性のさらなる向上を目指すことが期待される。一方で、本研究は基本的な尺度開発プロセスにもとづいて研究されており、SSAS は多角的な分析によって一定の信頼性と妥当性が確認され、青年期にある人々に対する性教育の充実に貢献し得る成果物を創造したことから、博士論文として十分な研究意義を有するものと評価する。

令和4年3月3日

論文審査委員 (主査) 竹内 朋子